

## 2017年度 第1回 鋼構造座屈小委員会議事録

1. 日時 平成29年5月8日(金)13時30分～16時30分
2. 場所 建築会館・本会会議室
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 木村祥裕, 倉田真宏, 小崎均, 田川浩, 竹内徹, 津田恵吾, 藤本益美, 松井良太(敬称略), 金尾伊織 (記録)

### 4. 配付資料

- 01-01 2016年度第2回鋼構造座屈小委員会議事録(案) (宇佐美)
- 01-02 小委員会設置申請書 (木村)
- 01-03 WG設置申請書 (木村)
- 01-04 座屈小委員会活動方針案 2017.4-2021.3 (木村)
- 01-05 WG活動報告 (木村)  
座屈する構造部材に取り付く周辺部材の座屈拘束効果・誘発作用(①)【WGの活動内容】  
周辺部材から作用する応力を考慮した構造部材の座屈性状
- 01-06 水平力を受ける鋼構造ラーメン骨組の繰返し載荷実験 (井戸田)
- 01-07 H形断面梁の局部座屈性状に及ぼす梁端部形式の影響 (五十嵐)  
H形断面梁の横座屈耐力に与える端部境界条件及びモーメント勾配の影響係数

### 5. 議事内容

#### 資料01-01

- ・ 資料01-01に基づき前回議事録の確認を行い、承認された。

#### 資料01-02

- ・ 資料01-02に基づき、小委員会設置申請の内容が説明された。
- ・ 2017年の座屈設計指針における課題に関して、「鋼構造の座屈に関する諸問題」の刊行を目指すことを確認した。また、同時に設置されるWGでの内容を反映させることを確認した。

#### 資料01-03

- ・ 資料01-03に基づき、WG設置申請の内容が説明された。
- ・ WGでは、柱および梁について、部材の細長比や幅厚比に加え、荷重条件、境界条件が座屈に与える影響を明確にし、座屈性能評価の高度化を目指す。
- ・ 東北大学・佐藤公亮先生の参加について承認され、名古屋工業大学・佐藤篤司先生に参加いただきたいという意見が出され、本人に確認することとなった(その後、ご本人から参加を了解したという連絡をいただいた)。

#### 資料01-04

- ・ 資料01-04に従い、委員会の方針について説明された。
- ・ 鋼構造部材の座屈現象及び骨組の不安定現象をより精緻に明らかにする目的で、①周辺部材の座屈拘束効果・誘発作用、②周辺部材の座屈性状への影響、③静的荷重下と動的荷重下における座屈現象の相違、④座屈を伴う骨組全体の動的不安定現象を大きなテーマとし、各委員が情報を提供していくことを確認した。

## 資料01-05～01-07

- ・資料01-05～01-07に従い，WGの活動報告および今後の活動内容について説明された。
- ・現在得られている知見を整理し，種々の影響度を明確にする必要があることが確認された。
  - ・梁がとり付く柱が座屈性状に与える影響に関する研究が報告され，柱の形状などによって座屈長さなどが影響を受けることが説明された。
  - ・軸力を受ける梁について，制振構面におけるH形鋼梁の局部座屈性状，横座屈性状に関する研究報告について説明された。
  - ・柱のねじれ剛性，梁のそり拘束による骨組の挙動への影響について，実験的研究について説明され，最大耐力後の挙動に顕著な違いがみられることが説明された。
  - ・境界条件やモーメント勾配の影響を考慮した弾性屈耐力の算定方法に関して説明された。
  - ・梁端部形式によって局部座屈の性状が異なり，ウェブの応力状態が異なることが説明された。
- ・鋼管杭の塑性設計に関する内容を扱うべきかについて議論され，「鋼構造の座屈に関する諸問題」で扱うことが望ましいという意見が出された。

## その他

- ・今後の委員会の方針として，座屈設計指針を本来の「指針」とした体裁とし，指針を理解するためのガイドブックのような資料を作成できないかという意見がだされ，WGで検討することになった。
- ・座屈設計指針について，植松先生からの査読回答について報告され，概ね了承されたことが報告された。
- ・講習会開催日は東京（2/23），大阪（3/2）で決定した。
- ・小崎委員より委員交代について報告があり，末岡氏が推薦され，了承された。
- ・津田委員，藤本委員から，今年度で委員の交代を検討したい旨が報告された。

## 6. 次回小委員会予定

WG	: 2017年7月27日（木）13：00～14：00	建築会館
座屈小委員会	: 2017年7月27日（木）14：00～17：00	建築会館